

N

F

C

NFC CALENDAR

大ホール(2階)

L シネマの冒険 闇と音楽： フリッツ・ラング選集

Silent Film Renaissance — Featuring Fritz Lang

3月14日(火)～3月25日(土)

料金(特別企画上映)＝一般810円/学生490円/小人350円

協力: GOETHE INSTITUT 東京ドイツ文化センター

展示室(7階)

フリッツ・ラング:映像とそのイメージの原型

Fritz Lang — Filmbilder Vorbilder

1月11日(火)～3月4日(土)

3月14日(火)～3月25日(土)

入場無料

●3月の休館日: 日曜日・月曜日、3月7日(火)～3月11日(土)、
3月28日(火)～4月1日(土)

休映日: 3月3日(金)、3月4日(土)

*展示室は休映日にも御利用になれます。

大ホール

定員＝大ホール300名

発券＝2階受付

- 観覧券は当日・当該回にのみ有効です。
- 発券・開場は開映の45分前から行い、定員に達し次第締切となります。
- 開映後の入場はできません。

展示室

開室＝休館日・休映日以外の火曜日～土曜日

(午前10時30分～午後6時/入場は5時30分まで)

図書室(4階)

開室＝休館日、休映日、祝日、臨時休室日以外の火曜日～金曜日

(午前10時30分～午後6時/入室は5時30分まで)

東京国立近代美術館フィルムセンター

National Film Center

The National Museum of Modern Art, Tokyo



2000

3

NFCカレンダー
2000年3月号

**大ホール
上映作品**

シネマの冒険
闇と音楽：
フリッツ・ラング選集
Silent Film Renaissance —
Featuring Fritz Lang

無声映画に伴奏や弁士の語りを付して上映する恒例企画「シネマの冒険 闇と音楽」の5回目となる今回は、1月から開催中の企画展示「フリッツ・ラング：映像とそのイメージの原型」に併せ、フリッツ・ラングのドイツ時代の作品を取り上げます。

最初の成功作とされる幻想的な寓話「死滅の谷」から、ラング映画の主要人物(マブゼ博士)が登場させた犯罪映画「ドクトル・マブゼ」、古代ゲルマンの叙事詩にもとづく大作「ニーベルンゲン」(今回上映するのはその第一部「ジークフリート」)、最後の無声作品となるSF映画「月世界の女」まで——二つの大戦間に開花したドイツ無声映画の黄金期にあって脚本家であり妻でもあったテア・フォン・ハルボウとの伝説的コンビのもとに生み出されたこれら傑作群は、また空間的な造形力に溢れる当時のドイツ映画の傾向を極限にまで高めた美術・装飾の素晴らしさで、いまなお見る者を圧倒します。今回はとくにドイツから招いた2名のピアニストが、それぞれにラング芸術の魅力を引き出すことになります。

皆様のご来場をお待ち申し上げます。

- 原 = 原作 脚 = 脚本・脚色 撮 = 撮影 美 = 美術
- 出 = 出演者
- 記載した上映分数は、当日のものと異なることがあります。

L-2 3/15(水)6:30pm 3/24(金)6:30pm

ドクトル・マブゼ 大賭博師

Dr. Mabuse — Der Spieler

変装や催眠術を自在に用い、無限の欲望に駆られて次々と犯罪を重ねる怪人マブゼ博士(R・クライン=ロッゲ)。その悪行を緻密な構成で見せるこの2部作は、ラング芸術のひとつの骨頂である。ラングは第一次大戦勃発までの一時期をパリに過ごし、フランスの連続冒険活劇にも影響を受けたと語っている通り、《超人思想》と《絶対悪》との融合を執拗に描いたこの作品は、一方で彼の柔軟な感受性、汎ヨーロッパ的な知性を示しているとも言えるだろう。この作品の公開後、フォン・ハルボウは主演俳優クライン=ロッゲと離婚し、正式にラングの夫人となった。

(102分・16mm・無声・白黒・英語インタータイトル/日本語字幕付き)

'22ウルシュタイン=ウーコ・フィルム、デクラ=ピオスコープ、ウーファ[Ⓜ]ノルベール・ジャック[Ⓜ]フリッツ・ラング、テア・フォン・ハルボウ[Ⓜ]カール・ホフマン[Ⓜ]オットー・フンテ、カール・シュタール=ウーラハ[Ⓜ]ドルフ・クライン=ロッゲ、アルフレート・アベル、アウド・エゲーデ・ニッセン、ゲルトルト・ヴェルカー、ベルンハルト・ゲツケ、パウル・リヒター



L-4 3/17(金)6:30pm 3/22(水)6:30pm

ニーベルンゲン 第一部 ジークフリート

Die Nibelungen — Siegfrieds Tod

ヴァグナーのオペラ「ニーベルンゲンの指輪」にも着想を与えた13世紀初期の叙事詩などに基づく2部作「ニーベルンゲン」の第1部。フォン・ハルボウの色濃いゲルマン趣味もさることながら、青年期をミュンヘンの国立美術工芸学校に学んだラングは「ミュンヘン分離派やベックリンを初めとするドイツ後期ロマン派絵画の影響」(小松弘)をこの映画に注ぎ込んでおり、新たな芸術潮流にも反応していたことが分かる。なお、この映画の撮影中にデクラ=ピオスコープ社はウーファに合併され、ドイツ映画界を牛耳る巨大コンツェルンが形成された。

(100分・16mm・無声・白黒・ドイツ語インタータイトル/日本語字幕付き)

'24デクラ=ピオスコープ/ウーファ[Ⓜ]テア・フォン・ハルボウ[Ⓜ]カール・ホフマン、ギュンター・リッター、ヴァルター・ルットマン[Ⓜ]オットー・フンテ、エーリッヒ・ケッテルフート、カール・フォルブレヒト[Ⓜ]パウル・リヒター、マルガレーテ・シェーン、テオドール・ロース、ハンス・アダルベルト・フォン・シュレトウ、ゲオルク・ヨーン、ハナ・ラルフ



L-1 3/14(火)6:30pm 3/23(木)6:30pm

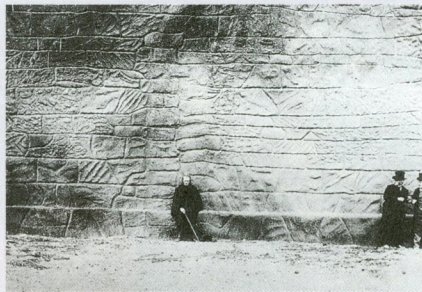
死滅の谷

Der müde Tod

恋人に死なれた女に死神が近づき、恋人を取り戻すための3つのチャンスを与える。女は死神の命に従って、9世紀のバグダッド、ルネッサンスのヴェネチア、古代の中国という3つの物語に入り込んで消えゆく命の火を救おうとするが…。ラングにとっては第8作だが、『この監督には何かがある』と言われた最初の映画』と自ら述べた出世作であり、『死を超越した愛』というテーマからは、右腕である脚本家テア・フォン・ハルボウの神秘主義が早くも片鱗を見せている。アメリカではダグラス・フェアバンク스가、この映画の特殊効果にヒントを得てラオール・ウォルシュに「バグダッドの盗賊」(1924年)を撮らせた。

(85分・16mm・無声・白黒・英語インタータイトル/日本語字幕付き)

'21デクラ=ピオスコープ[Ⓜ]フリッツ・ラング、テア・フォン・ハルボウ[Ⓜ]エーリッヒ・ニッツシュマン、フリッツ・アルノ・ヴァグナー、ヘルマン・ザールフランク[Ⓜ]ヘルマン・ヴァルム、ロベルト・ヘールト、ヴァルター・レーリッヒ[Ⓜ]ベルンハルト・ゲツケ、リル・ダゴファー、ヴァルター・ヤンセン、ルドルフ・クライン=ロッゲ、エドワルト・フォン・ヴィンテルシュタイン



L-3 3/16(木)6:30pm 3/25(土)4:00pm

ドクトル・マブゼ 犯罪地獄

Dr. Mabuse — Inferno des Verbrechens

大がかりな経済犯罪からイカサマ賭博、そして殺人へと展開した第1部「大賭博師」に続いて、この第2部はマブゼが得意の催眠術を駆使して悪事の限りを尽くしながらも、検事ヴェンク(B・ゲツケ)の活躍によって逮捕されるまでを追う。この映画に対する決定的な評価は、やがて亡命直前の1932年、死せるマブゼに憑依された男を描いた「怪人マブゼ博士」を、そして長いハリウッド滞在からドイツに帰還後の1960年にも同題のリメイクを生み出すこととなり、「マブゼ博士」はラングと生涯切り離せない存在となった。

(100分・16mm・無声・白黒・英語インタータイトル/日本語字幕付き)

'22ウルシュタイン=ウーコ・フィルム、デクラ=ピオスコープ、ウーファ[Ⓜ]ノルベール・ジャック[Ⓜ]フリッツ・ラング、テア・フォン・ハルボウ[Ⓜ]カール・ホフマン[Ⓜ]オットー・フンテ、カール・シュタール=ウーラハ[Ⓜ]ドルフ・クライン=ロッゲ、アルフレート・アベル、アウド・エゲーデ・ニッセン、ゲルトルト・ヴェルカー、ベルンハルト・ゲツケ



L-5 3/18(土)4:00pm 3/21(火)6:30pm

月世界の女

Frau im Mond

ラング最後のサイレント映画にして、ウーファのために撮った最後の作品。ともかくも「月世界旅行」に科学的な裏付けを与えた画期的な「空想科学映画」となったが、その一方で描かれるのは月面に大金鉱を探り当てた人々の骨肉の争いであり、宇宙空間にまで持ち込まれた人間の愛憎絵巻がこの作品の基調となっている。ラングによればこの映画の着想は、「メトロポリス」(1926年)を撮影した際、ラスト・シーンで支配者の息子を宇宙に飛び立たせるというアイデアから生まれたという。前作「スピオエネ」(1928年)でデビューした理知的な風貌の女優ゲルダ・マウルスが作品世界を支えている。

(148分・35mm・無声・白黒・ドイツ語インタータイトル/日本語字幕付き)

'29フリッツ・ラング・フィルム/ウーファ[Ⓜ]テア・フォン・ハルボウ[Ⓜ]クルト・コウラント、オスカー・フィッシーガー、オットー・カント[Ⓜ]レク、コンスタンティン・チェット[Ⓜ]オットー・フンテ、エミール・ハスラー、カール・フォルブレヒト[Ⓜ]ゲルダ・マウルス、ヴェリ・フリッチュ、フリッツ・ラスプ、グスタフ・フォン・ヴァンゲンハイム、クラウス・ポール、グストル・シュタルク=グステッテンパウアー



ピアノ伴奏者紹介

ギンター・A・ブーフヴァルト

Günter A. Buchwald

1972年、フライブルク国立音楽大学でヴァイオリン、ピアノ、指揮、音楽理論を学ぶ。ジャズからバロック音楽まで幅広いジャンルの演奏を経て、1978年より無声映画のピアノ伴奏を始め、1986年には「サイレント・ムービー・ミュージック・カンパニー」を設立、ベルリン国際映画祭をはじめとするヨーロッパの映画祭を中心に活躍し、無声映画時代の楽譜の復元にも力を注いでいる。1991年の初来日以来、ドイツ文化センター、京都映画祭等、我が国でも数々の伴奏公演を行っている。



アリョーシャ・ツィンマーマン

Aljoscha Zimmermann

1988年より無声映画のライブ演奏を行う。ミュンヘン音楽大学で教授を務めるかわら「無声映画シンフォニー」の中心的な音楽家として映画史への造詣も深く、ミュンヘン映画博物館で無声映画の復元版のための編曲・作曲を定期的に担当するなど、これまでに200以上のレパートリーを手がけている。カンヌ、ベルリン、ポルデノーネ、ラ・ロシェル等、世界各国の映画祭にも招かれ注目を集めているほか、テレビ放映用に様々な無声映画の編曲も行っている。



フリッツ・ラング：映像とそのイメージの原型

Fritz Lang — Filmbilder Vorbilder

会期：1月11日(火)–3月4日(土)、3月14日(火)–3月25日(土) / 会場：展示室(7階)

映画史上もつとも偉大な映画監督の一人であるフリッツ・ラング(1890~1976年)は、幾多の作品が内包する強烈なイメージの数々と、そこから現出する特異なビジョンとによって、20世紀の映像史の中に比類のない足跡を残しました。

本展示会は、無声映画を中心とするドイツ時代の彼の映画を特徴づけた幻想感溢れるさまざまな視覚的イメージを、絵画やデッサン、彫刻、建築といった映画以外の芸術に現われて、彼自身に直接、間接に影響を与えたと思われるさまざまなイメージ、さらには本人の画家・彫刻家時代の作品とも比較しながら、ラング芸術の謎と秘密に迫ろうとするものです。

それはまた、青年期までのラングが生きた都市—世紀の変わり目に新旧の芸術を浴びることになった生地ウィーン、1911年から画学生として暮らしたアール・ヌーヴォー繚乱さなかのミュンヘン、軍隊生活の中にありながら彫刻に惹かれていった1915年、スロヴェニアのリュブリャナ、そして映画とアヴァンギャルドに出会うベルリン(1918年以降)—をめぐる旅でもあります。

企画者ハイデ・シェーネマンが、「さまざまなイメージ・コンセプトの歴史の一つとして映画の歴史を見せる展示」と語るように、そこには「死滅の谷」(1921年)、「ドクトル・マブゼ」(1922年)、「ニーベルンゲン」(1924年)、「メトロポリス」(1926年)といった傑作群から切り取られた数々の場面写真とともに、ブリューゲル、チェシュカ、ユリウス・ディーツ、ブルーノ・タウトらによる絵画やデザイン画の複製、写真が並んで、ラングとその芸術的原風景を雄弁に語ってくれます。

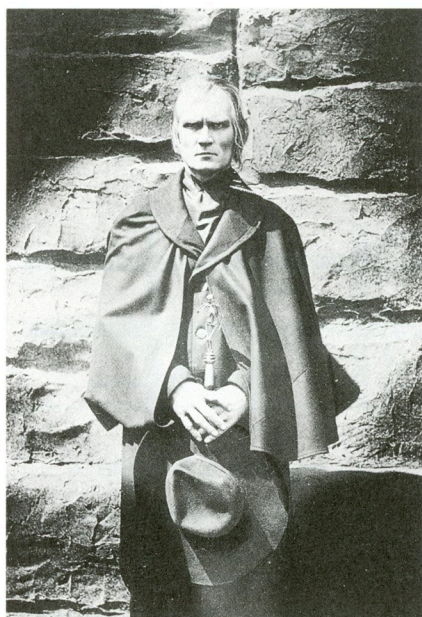
旧東ドイツのポツダム映画博物館とドイツ・キネマテーク財団等が協力して90年代のはじめに



開催された同名展を原型とする本企画は、60点の写真パネルからなる展示として、ゲーテ・インスティテュートによって1995年から世界各国のフィルム・アーカイヴや文化施設を巡回し好評を得てきました。

フリッツ・ラング生誕110周年にあたる本年初頭をかざるこの展示と、「シネマの冒険 闇と音楽」におけるラング映画5作品のピアノ伴奏付き上映とによって、ラング芸術と彼の生きた時代についての新たな理解が深まることを願っています。

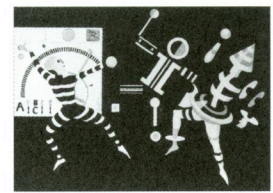
- 主催=東京国立近代美術館フィルムセンター
GOETHE INSTITUT 東京ドイツ文化センター
- 開室：午前10時30分—午後6時(入場は午後5時30分まで)
- 休館日：日曜日、月曜日および3月7日(火)–3月11日(土)
- 入場無料



死滅の谷



「ニーベルンゲン 第1部 ジークフリート」1924年
カール・オットー・チェシュカ、ゲルラッハ青少年文庫版「ニーベルンゲン」の挿絵 1909年



「メトロポリス」1926年
クルト・シュミット「制御盤で働く男」1924年

日 月	火	水	木	金	土
3 月	L-1 6:30pm 死滅の谷 <i>Der müde Tod</i> (85分・英語インタータイ トル/日本語字幕付き) ピアノ伴奏=ギュンター・ A・ブーフヴァルト	L-2 6:30pm ドクトル・マブゼ 大賭博師 <i>Dr. Mabuse — Der Spieler</i> (102分・英語インタータイ トル/日本語字幕付き) ピアノ伴奏=ギュンター・ A・ブーフヴァルト	L-3 6:30pm ドクトル・マブゼ 犯罪地獄 <i>Dr. Mabuse — Inferno des Verbrechens</i> (100分・英語インタータイ トル/日本語字幕付き) ピアノ伴奏=ギュンター・ A・ブーフヴァルト	L-4 6:30pm ニーベルンゲン 第一部 ジークフリート <i>Die Nibelungen — Siegfrieds Tod</i> (100分・ドイツ語インター タイトル/日本語字幕付 き) ピアノ伴奏=ギュンター・ A・ブーフヴァルト	L-5 4:00pm 月世界の女 <i>Frau im Mond</i> (100分・ドイツ語インター タイトル/日本語字幕付 き) ピアノ伴奏=ギュンター・ A・ブーフヴァルト
	L-5 6:30pm 月世界の女 <i>Frau im Mond</i> (100分・ドイツ語インター タイトル/日本語字幕付 き) ピアノ伴奏=アリョーシャ・ ツインマーマン	L-4 6:30pm ニーベルンゲン 第一部 ジークフリート <i>Die Nibelungen — Siegfrieds Tod</i> (100分・ドイツ語インター タイトル/日本語字幕付 き) ピアノ伴奏=アリョーシャ・ ツインマーマン	L-1 6:30pm 死滅の谷 <i>Der müde Tod</i> (85分・英語インタータイ トル/日本語字幕付き) ピアノ伴奏=アリョーシャ・ ツインマーマン	L-2 6:30pm ドクトル・マブゼ 大賭博師 <i>Dr. Mabuse — Der Spieler</i> (102分・英語インタータイ トル/日本語字幕付き) ピアノ伴奏=アリョーシャ・ ツインマーマン	L-3 4:00pm ドクトル・マブゼ 犯罪地獄 <i>Dr. Mabuse — Inferno des Verbrechens</i> (100分・英語インタータイ トル/日本語字幕付き) ピアノ伴奏=アリョーシャ・ ツインマーマン

図書室カレンダー

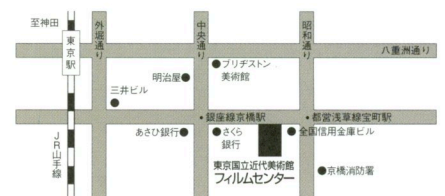
赤は休室日

3月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2階受付では、「NFCニューズレター」(隔月刊)を販売しています。これは、フィルムセンターのさまざまな催し物や事業の情報、上映番組の解説、予告等はもちろんのこと、世界のフィルム・アーカイヴやシネマテークの紹介、映画史研究の先端的成果の発表などを掲載する機関誌です。どうぞご利用下さい。

東京国立近代美術館フィルムセンターは、国際フィルム・アーカイヴ連盟 (FIAF) の正会員です。FIAFは文化遺産として、また、歴史資料としての映画フィルムを、破壊・散逸から救済し保存しようとする世界の諸機関を結びつけている国際団体です。



フィルムセンター 〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6

▼交通:
 営団地下鉄銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
 都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
 営団地下鉄有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分
 JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ: NTT東日本ハローダイヤル 03-3272-8600
 東京国立近代美術館ホームページ: <http://www.momat.go.jp/>